

2016年2月10日

クラレトレーディング株式会社

平成27年（2015年）12月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三
問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部主席部員 (氏名) 宮西 賢治
: (TEL) (06) 7635-1636

(百万円未満切捨て)

1. 当期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

	当期 (平成27年1月～平成27年12月)		前期 (平成26年4月～平成26年12月)	
	金額	利益率	金額	利益率
売上高	119,640	-	91,127	-
営業利益	3,882	3.2%	2,791	3.1%
経常利益	3,960	3.3%	2,877	3.2%
当期純利益	2,605	2.2%	1,876	2.1%

(注) 当社は、平成26年12月期より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、当連結会計年度（平成27年1月1日から同12月31日）と、比較対象となる前連結会計年度（平成26年4月1日から同12月31日）が異なるため、対前期の増減は記載しておりません。

(前連結会計年度は、当社が平成26年4月1日から同12月31日までを、連結子会社の可樂麗貿易（上海）有限公司は平成26年1月1日から同12月31日までをそれぞれ連結対象期間としておりました)

(2) 単体経営成績（累計）

	当期 (平成27年1月～平成27年12月)		前期 (平成26年4月～平成26年12月)	
	金額	利益率	金額	利益率
売上高	118,297	-	88,989	-
営業利益	3,695	3.1%	2,617	2.9%
経常利益	3,772	3.2%	2,681	3.0%
当期純利益	2,463	2.1%	1,730	1.9%

2. 当期の連結経営成績に関する定性的情報

【連結業績】

	当期 (平成27年1月～平成27年12月)		前年同一期間※ (平成26年1月～平成26年12月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	119,640	-	119,266	-	+374	+0.3%
営業利益	3,882	3.2%	3,879	3.3%	+3	+0.1%
経常利益	3,960	3.3%	4,028	3.4%	▲68	▲1.7%
当期純利益	2,605	2.2%	2,573	2.2%	+31	+1.2%

※前年同一期間は、当期（平成27年1月1日から同12月31日）に対応する前年の同一期間（平成26年1月1日から同12月31日）であります。この数値は監査を受けておりません。

【単体業績】

	当期 (平成27年1月～平成27年12月)		前年同一期間 (平成26年1月～平成26年12月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	118,297	-	117,870	-	+426	+0.4%
営業利益	3,695	3.1%	3,704	3.1%	▲9	▲0.2%
経常利益	3,772	3.2%	3,832	3.3%	▲60	▲1.6%
当期純利益	2,463	2.1%	2,427	2.1%	+36	+1.5%

以下、前年同一期間との対比で記載しております。

当連結会計年度（平成27年1月1日～平成27年12月31日）の当社経営環境は、国内景気は全体としては緩やかな回復基調にあったものの、国内消費の回復に勢いは見られませんでした。当社が注力しているアジア市場は、最大市場の中国の景気減速が周辺国にも影響し、先行き不透明感が一層高まりました。また、円安が定着し一部商材ではコストアップ要因となりました。

このような環境の下、クラレグループが目指す「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現に向け、当年度スタートした新中期経営計画『GS-STEP』で掲げる「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」や「高付加価値商材の開発」を推進しました。更に、コストアップに対しましては、諸費用の削減や価格改定に努めました。

当期の連結経営成績につきましては、売上高は1,196億4千万円（対前年同一期間比3億7千4百万円、0.3%の増収）、営業利益は38億8千2百万円（同3百万円、0.1%の増益）、経常利益は39億6千万円（同6千8百万円、1.7%の減益）、当期純利益は26億5百万円（同3千1百万円、1.2%の増益）となりました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(1) 営業の概況

【繊維関連】(増収、増益)

売上高は437億5千万円。前年同一期間比1億1千1百万円(0.2%)の増収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け高機能素材の販売、並びに学校体育衣料向け販売が好調に推移し、増収となりました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング用途、サービス用途とも、期後半を中心に流通在庫調整の影響を強く受け、減収となりました。
- 縫製ビジネスにつきましては、生産基地のベトナムへのシフトを進める中、協力工場に対する増強投資と資金融資を決定いたしました(2016年7月稼働予定)。
- ブラックフォーマル分野は、ロードサイド店向けが健闘する中、一部アパレル向けで在庫調整の影響を受け、減収となりました。
- 機能原糸は、<ミントバール>がタオル用途を中心に販売数量が拡大しました。<クラカーボ>は用途拡大が進んだものの、中国向けが経済悪化の影響を受け販売数量は微増に留まりました。尚、ミントバールは生産設備の増強投資を決定いたしました(2016年末稼働予定)。
- 上海現地法人では、現地日系アパレル向けを中心に縫製品販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、メディカル関連が好調な需要に支えられ販売が伸長しました。ベトナム現地法人との協働による、現地日系企業向けの供給体制の構築は、両分野で着実に進展しております。
- 産業資材は、自動車用ゴム資材のビニロンや高強力繊維<ベクトラン>が、中国経済の悪化による生産調整の影響を受け、減収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、主力のランドセル用途の販売が好調に推移し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は増収、利益は前年並みとなりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(増収、減益)

売上高は758億9千万円。前年同一期間比2億6千3百万円(0.3%)の増収。

- 溶剤等化学品関連は、中国経済の悪化影響を受け伸び悩んだ分野がありました。
- 環境関連資材は、活性炭の中国向け販売が苦戦しました。
- その他の商材は、比較的堅調に推移しました。

(2) 平成 28 年 12 月期の連結業績予想(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

当社の経営環境は、中国、新興国経済が引き続き先行き不透明な状況である上に、中東での地政学リスクの高まりなど、国内、海外とも予断を許さない不安定な状況にあると認識しております。

このような中、新中期経営計画『GS-STEP』の戦略である、アジアを中心とする海外市場の開拓や、高付加価値商材の開発・拡販への注力を通じ、次期連結会計年度の業績は当期業績を若干上回るものと予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期 (累計)	605	18	18	11
通 期	1,250	40	40	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上